



便り

似たもの同士

子育ての頃、ボーイスカウトの仲間として活動していた友。しばらく疎遠になっていたが、高齢者になり、地域サロン活動で再び仲間となった。時が経ってもお節介気質は治まらず、認知症で一人住まいの知人宅訪問、嫁姑の愚痴の長電話など日々関わっている。いつ我々をお世話してくださる方が現れるのだろうか。80歳を過ぎても世話焼きをしている似たもの同士。花の寡婦100歳までカンパルぞ。

(名華女)

長女と小4の孫娘。似過ぎてそりが合わないのか、衝突事件が頻発する。子は自分の鏡であると感じ。特に春先は波長が乱れるようで、その度に祖母の順番が回ってくる。必要とされているのか便利屋なのか微妙だ。

(すみちゃん)

幼い頃、私と妹は「外見が全く違うね」とよく言われた。妹は刈り上げカットでわんぱくなため、いつも男の子に間違われた。私はロングヘアでおとなしく家遊びの好きな女子。しかし成人後、ともに旅行した際は、スキーバスや新幹線に乗り遅れたりしても、お互いなじむ事なく笑い飛ばした。気質は似てるかもっと思っ。

(はろ)

### △ハモーン博士のまとめ

世の中「似たもの同士」の夫婦やカップル、友人同士が多いと思わんか。長く一緒にいると影響を受けるのが、元々似ていたのか分からんかの。似ていれば心地よいときもあれば、似過ぎて反発することもある。不思議なもんじゃが、「似たもの同士だね」と言われたときに、イヤな顔をするのも、されるのも避けたいもんじゃな。



問合せ

大口町NPO登録団体ハモーン

☎95-1691



No.62



## Be Ambitious

vol.324

町内にお住まいの  
20代の皆さんがリレーで登場!

## 地元を離れた経験を経て

近藤 弘崇さん(余野) H9.7月生



大学は広島へ

大学に進学する際、誰も知り合いのいない場所で、一から始めて見るのもおもしろいんじゃないかと地元を離れる事を決断。縁もゆかりもない広島で4年間を過ごしました。地方からきている人も多く、サークル活動やキャンプなどで親睦を深めました。

自炊は炊飯のみ。学食やアルバイト先のスーパのお惣菜で4年間乗り切りました。天気を気にしての洗濯や、ゴミ出しなど、実家にいた時の親のありがたみも感じました。楽しい思い出もたくさんあります。

ですが、思いもよらぬ経験となったのが、西日本豪雨です。土砂災害にあった地域へのボランティアに参加。道路や家屋が土砂で覆われている光景を目にして、言葉になり

ませんでした。土砂かきをしなから、これが自分の家だったらと思うと気が重くなり、災害や防災について考えるきっかけになりました。

家族について

父は単身赴任。夏休みに、赴任先の東京、大阪、千葉などに遊びに行つた思い出があります。父を見て転勤の大変さを知っているので、就職は地元に戻り、この地に根を張って生きていくことを選びました。一度地元を離れたことで、大口町の良さに気づけたのもあります。

妹と弟を含め、家族全員野球好き。中継がある時は必ずテレビ観戦しています。コロナ禍で自由も制限されている日々ですが、家族との何気ない日常会話の大切さにも気づきました。



▲豊山町のイチロー博物館にて